

即戦力として活躍する職員となるために

結エデュケーション株式会社 代表取締役 高嶋 謙行

みなさんをご存知ですが、仕事はひとりで行うものではありませんよね。上司や先輩、他部署、外部団体、業者、住民をパートナーとし、協働の中で進められていくものです。そしてそのパートナーには、実に多種多様な考えや価値観を持った「人」がいます。

今までは友人関係を通じ、気の合う人を友人として選び、そして付き合っに行けば良かった面もあります。もちろん、学校の先生や部活の先輩、アルバイト先の仲間など、一部の選択の余地のない関係や環境もありますが…。

しかし今後社会生活がスタートすれば、多種多様な人々と協力して仕事を進めて行くことが必要になります。特に上司からの指示や指導に納得がいく場面もあれば、疑問を感じる場面も出てきます。

私は研修会社の営業職として新卒入社をして社会人のスタートを切りました。その中で上司との関わりの中で多くの経験談があります。

上司：「予算厳しいなあ。どうするつもり？」

高嶋：「既存のお客さまにも再度、研修のご計画や実施についてお願いをしておりますが、上がっている案件をまとめても目標達成は厳しそうです。時間的にも新規のお客様を開拓しても難しいです。」

上司：「ホントにそうか？ まだできることはあるだろ？できない理由ばかり言わないで考えなさいよ」

と突っぱねられました。「部下の尻を叩くだけなら簡単ですよ」と言いたいのをこらえて、新規案件の受注に向けて、テルアポやセールスをかけた経験談があります。

当時は憤りしか感じませんでした。これはほんの一例です。様々な経験を通じた中で、結果的にうまくいったものもありますし、努力の甲斐無く成果が出なかったものもそれ以上にあります。

しかし、成果が出なかった仕事での私の努力は、“無駄骨”だったのでしょうか？そしてその努力を強いた私の上司の発言は、果たして“余計な一言”だったのでしょうか？私の答えは「どちらもノー」と自信を持って言えます。

もちろん、当時の上司がどのような意図で発言したのかは、今となっては知る由もありません。

しかし多くの経験を通して、私は思考停止をしていたり、本質を考えずに表面的な思考をしていたりという、甘い考えであったことを後になって、そして部下を持つ立場になって痛感しました。

私が尊敬する人の中に、その研修会社の創設者がいます。残念ながら私が入

社をして 366 日目に肝臓がんで逝去されてしまったため、あまり長い時間を共にすることはできませんでした。ですが、

- ① 講師として研修や受講生の皆様に臨む姿勢
- ② 生活すべてが学びの場であること
- ③ 年齢や立場関係なく謙虚かつ貪欲に知識吸収をする姿勢
- ④ 講義・演習のトレーニングを日々欠かさない

等を言葉というより実践で示して下さったことが自分の中での思考や行動に大きな影響を与えられました。現在も別会社ですが脈々と根付いています。

今でも後悔していることは、「この方がずっと自分を育ててくれる（はず）」と安心せずに、1回1回の関わりをもっともっと大切に、そして濃密にしておけばもっと良かったという点です。前期・後期の研修での市町村を越えた同期のネットワーク、講師との関わり、職場の上司先輩からの指導やコミュニケーション等々……。一期一会を大切にしてくださいね

私の座右の銘に

「成功の反対は失敗ではない。成功の反対は何もしないことだ」

「すぐやる、どうせやるなら」

があります。

ぜひ皆さんに共感してほしい言葉です。

今回の研修は、「仕事の基本」と「接遇」について1日間で学んでいただく内容です。即戦力として活躍する職員となるべく、本気の1日間を一緒に過ごしましょう。

研修講師として、全国の官公庁・一部上場企業で社会人への研修を 22 年間担当。現在も新入社員研修から管理職研修まで、ヒューマンスキルに関わる教育を展開。「知識注入」のみの研修ではなく、「学びと気づきと楽しさ」を基盤とした、実践的なカリキュラムを運営することをポリシーとしている。

